

第1編 環境の現状と対策

第1章 尼崎市の概要

第1節 本市の自然的条件

1 位置及び地勢

本市は大阪平野の西部、兵庫県東南部に位置し、阪神都市圏に属している。西は武庫川を挟んで西宮市に、北は伊丹市に、東は神崎川、左門殿川を挟んで大阪市と、猪名川を挟んで豊中市と接し、南は大阪湾に面している。市域は東西8.3km、南北11.1km、総面積49.97km²である。(図 - 1)

地形は、大阪湾に面する広大な三角州上に立地し、北から南へ約1%の地表勾配で緩やかに傾斜しており、市域の約30%に当たる地域が平均満潮位（O.P. + 2.10m）以下の海拔ゼロメートル地帯となっている。

図 - 1 尼崎市の位置



2 気候

気候は瀬戸内海性気候に属しており、気温は年平均17.0 で概して温暖であり、年間降水量は約1,300mmである。また、風向は、夏季には南西系、冬季には北東系の風が吹く頻度が高い。

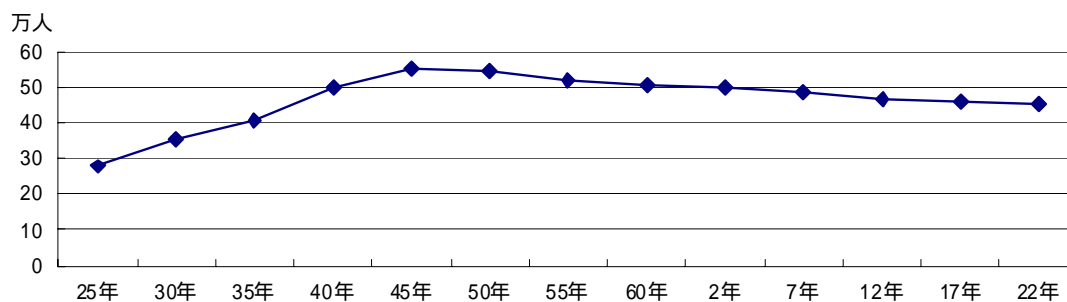
第2節 本市の社会的条件

1 人口

人口は、451,935人（尼崎市人口月報平成23年3月31日現在）で、昭和46年の約55万4千人をピークにして減少傾向にある。前年同月との比較では9,885人減少している。(図 - 2)

なお、世帯数は209,409世帯で、前年より774世帯増加している。

図-2 人口の経年変化



備考 国勢調査による人口
平成22年（第19回国勢調査）は速報

2 工業

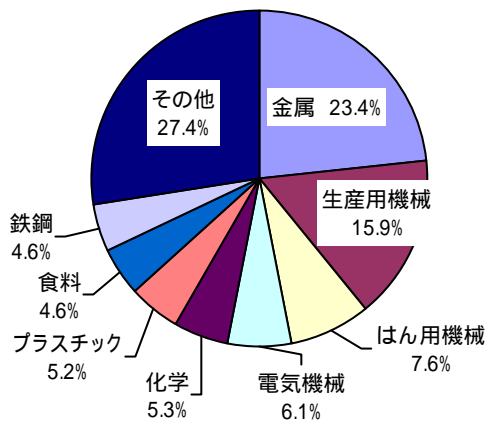
立地条件に恵まれた本市は、戦後、阪神工業地帯の中核都市として発展してきた。

しかし、国際経済環境の変化、技術革新の急速な進展などに伴う産業構造の変化、さらには工場立地制限等の規制により、バブル崩壊後は企業の市外移転や規模縮小など産業活動全般に伸び悩みがみられた。その後、平成14年度の工場等制限法の廃止により、大規模工場が新設できるようになった。また、経済状況は企業収益の改善や設備投資の増加を背景に緩やかな回復を続けている。

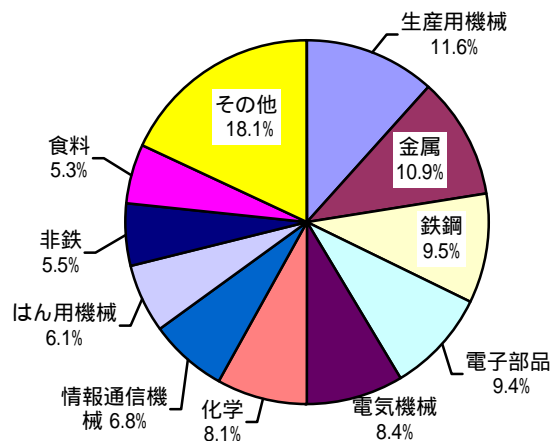
平成21年12月31日現在の従業者4人以上の事業所数は912事業所、従業者数は36,661人、製造品出荷額等の総額は1兆3,591億円であった。平成20年と比較すると事業所数は120事業所の減少、従業者数は3,093人の減少、製造品出荷額等総額は2,994億円減少している。(図-3)

図-3 平成21年 工業の構成比(4人以上事業所)

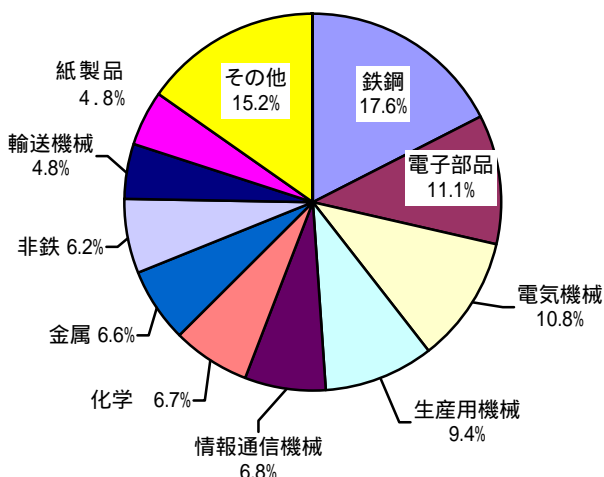
事業所数 (総数912事業所)



従業者数 (総数36,661人)

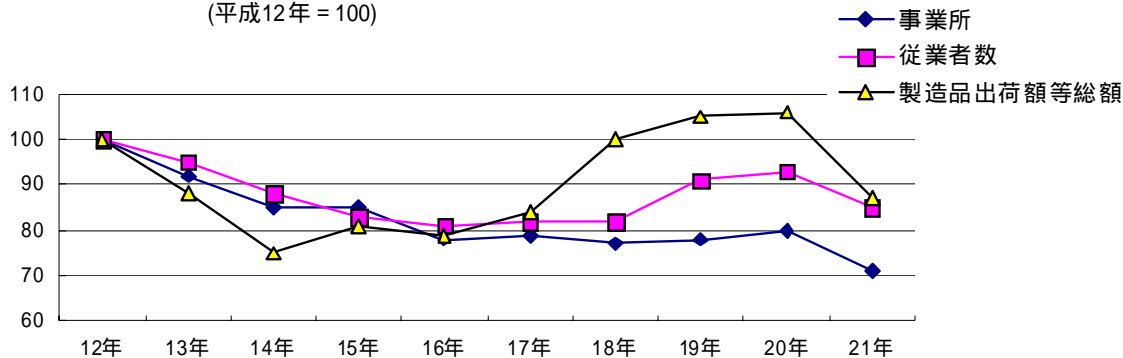


製造品出荷額等 (総額1兆3,591億円)



備考 「平成21年 尼崎市の工業」より作成

図 - 4 尼崎市工業主要指標の推移(4人以上事業所)
(平成12年 = 100)



備考 10年間の経年変化をみるため、平成12年を基準年とする。

3 土地利用

本市の市域面積は、49.97km²で、その土地利用を概観すると、臨海部から内陸部に向かって工業地、住工複合地、住宅地となっている。

なお、都市計画法（昭和43年法律第100号）に基づく都市計画区域の状況を示すと次のとおりである。（表 - 1）

表 - 1 都市計画区域（尼崎市域分）

（平成22年3月31日現在）

	面積ha	構成比%	特 性
都市計画区域			阪神間都市計画区域に属する(海面を含む)
市街化区域	4,625	100.0	
第1種低層住居専用地域	88	1.9	低層住宅の良好な環境保護のための地域
第1種中高層住居専用地域	1,173	25.4	中高層住宅の良好な環境保護のための地域
第2種中高層住居専用地域	284	6.1	一定の便利施設の立地は認められる、中高層住宅の良好な環境保護のための地域
第1種住居地域	885	19.1	大規模な店舗、事務所の立地は制限される、住宅の環境保護のための地域
第2種住居地域	163	3.6	大規模な店舗、事務所の立地も認められる、住宅環境保護のための地域
準住居地域	116	2.5	道路の沿道において、自動車関連施設等と住宅が調和して立地する地域
近隣商業地域	187	4.0	近隣の住宅地の住民のための店舗、事務所等の利便の増進を図る地域
商業地域	87	1.9	店舗、事務所等の利便の増進を図る地域
準工業地域	399	8.6	環境の悪化をもたらすおそれのない工業の利便の増進を図る地域
工業地域	546	11.8	工業の利便の増進を図る地域
工業専用地域	697	15.1	専ら工業の利便の増進を図るための地域
市街化調整区域			市街化区域以外の区域 河川、海面など

4 交通

本市は、大阪、神戸の二大都市間に位置することから、主として東西方向を通過する鉄道や幹線道路が整備されてきた。

鉄道は、東西方向に阪急神戸線、J R 神戸線、J R 東西線、阪神本線、南北方向にJ R 宝塚線、阪急伊丹線があるほか、平成21年3月に阪神なんば線が開通した。

また、道路網は東西方向の自動車専用道路（名神高速道路、阪神高速道路3号神戸線、阪神高速道路5号湾岸線）及び国道（国道2号、国道43号）と南北方向の兵庫県道（米谷昆陽尼崎線、尼崎池田線、尼崎宝塚線）を中心に構成されている。

このように本市の交通体系は、鉄道、道路とも特に東西方向に発達している。